



2010年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2009年10月
大阪ガス株式会社

I. 10.3期第2Q決算と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています。下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

連結ガス販売量に関する注記：名張近鉄ガス・篠山都市ガス・豊岡エネルギーは12月決算です。

ガス販売量に関する注記：全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

ただ今から、2010年3月期第2四半期決算と通期の見通しについて、ご説明させていただきます。

10.3期第2Q決算のポイント

■ 概況

- 連結売上高は、景気後退の影響によりガス販売量が減少したことや、LNG価格の下落に伴い、原料費調整制度に基づくガス販売価格が下落したことに加え、日商LPガスの元売・卸売部門が、新会社へ移管されたこと等によって、前年同期と比較して-17.3%減収の5,016億円。
- 連結経常利益は、LNG価格の下落に伴い「スライド差益」が312億円発生したこと等により、大幅増益の600億円。
- 上期実績を踏まえ、10.3期通期の見通しを、売上高-10億円、経常利益+40億円修正。

■ ガス販売量

- 家庭用は、若干の気温影響はあるものの、前年同期並みの830百万m³。
- 業務用は、景気後退によるお客さま設備の稼動減少やお客さまの省エネルギー推進によって、前年同期比12.5%減少の2,650百万m³。

■ 新規事業拡大投資

- 泉北発電所や環境・非エネルギー事業等、計198億円の投資を実行したほか、姫路・岡山ラインの建設や、豪州ゴーゴン・プロジェクト、豪州風力発電事業への参画を決定。

2010年3月期第2四半期累計は、減収・増益の決算となりました。

連結売上高は、景気後退の影響によりガス販売量が減少したことや、LNG価格の下落に伴い、原料費調整制度に基づくガス販売価格が下落したことに加え、日商LPガスの元売・卸売部門が、新会社ジャパン・ガス・エネルギーへ移管されたこと等によって、前年同期と比べて、1,046億円減(-17.3%)の5,016億円となりました。

連結経常利益は、LNG価格の下落に伴いスライド差益が312億円発生したこと等から、前年同期と比べて565億円増の600億円となりました。

以上の実績を踏まえ、2010年3月期通期の見通しについて、売上高を10億円下方に、経常利益を40億円上方に修正することとしました。

ガス販売量については、家庭用で、お客さま数の増加や若干の気温の影響等があったものの、前年同期並みの830百万m³となりました。業務用は、景気後退によるお客さま設備の稼動減少やお客さまの省エネルギー推進によって、前年同期を12.5%下回る2,650百万m³となりました。

新規事業拡大投資については、泉北発電所、不動産、先端材料等、計198億円の投資を実行したほか、上期には、姫路・岡山ラインの建設、オーストラリアのゴーゴン・プロジェクトや風力発電事業への参画を決定しました。

第2Qガス販売実績

45MJ/m ³		A. 10.3 2Q	B. 09.3 2Q	A-B	A-B/B(%)
個別	期末取付メーター(千件)	6,953	6,903	+49	+0.7%
	新設工事件数(千件)	35	50	-15	--
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	23.9	24.0	-0.1	-0.4%
	家庭用	830	832	-2	-0.2%
	商公医療用	798	826	-28	-3.4%
	工業用	1,852	2,201	-349	-15.9%
	業務用計	2,650	3,027	-377	-12.5%
	他ガス事業者向け	206	215	-9	-4.2%
	(うち大口供給)	(2,231)	(2,587)	(-356)	(-13.8%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	3,686	4,074	-388	-9.5%
連結ガス販売量	3,703	4,093	-391	-9.5%	

2010年3月期第2四半期累計のガス販売の状況について、詳しくご説明します。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年同期比9.5%減の3,686百万m³となりました。

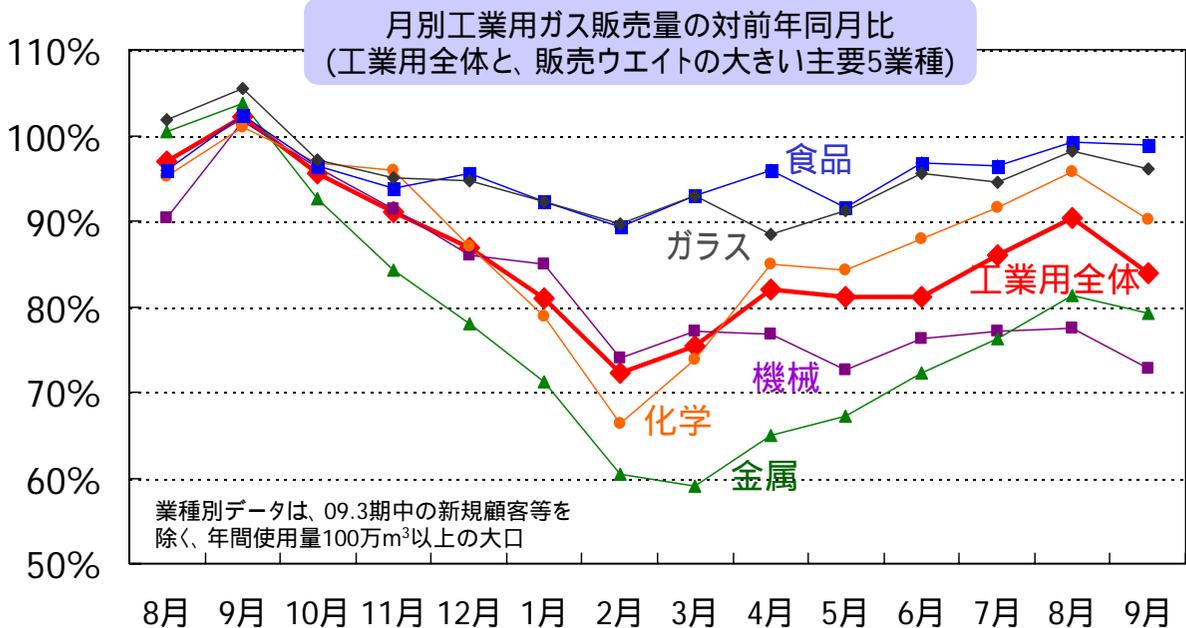
家庭用は、お客さま数が増加し、夏場の水温が前年に比べて低く推移したものの、4月および6月の気温・水温が前年よりも高く推移したことから、前年並みの830百万m³となりました。

業務用は、前年同期比12.5%減の2,650百万m³となり、うち、商業用および公用・医療用では、夏場の気温が前年に比べ低く推移したことによる冷房需要の減少や、お客さまの省エネルギー推進等により、前年同期と比べて3.4%減の798百万m³となりました。

また、工業用については、新規需要開発による販売量の増加はあったものの、景気後退によるお客さま設備の稼働減少やお客さまの省エネルギー推進の影響が大きく、前年同期と比べて15.9%減の1,852百万m³となりました。

工業用ガス販売の状況

- 工業用ガス販売全体では、09年2月に対前年同月比72.6%であったが、9月には84.0%まで回復。
- 業種により回復状況は異なる。



工業用ガス販売は、2009年2月に対前年同月比72%にまで低下しましたが、2009年9月には対前年同月比84%まで回復しています。

しかし、9月には再び前年同月比のマイナス幅が拡大したほか、業種別に見ると、機械は底ばい状態が続いているなど、今後回復を続けるのかどうか、引き続き注視が必要と考えています。

10.3期第2Q実績 I

連結: 億円、()内は連単倍率

	A. 10.3 2Q	B. 09.3 2Q	A-B	A-B/B(%)
売上高	(1.32) 5,016	(1.41) 6,063	-1,046	-17.3%
営業利益	(1.31) 617	(---) 12	+605	48倍
経常利益	(1.24) 600	(---) 35	+565	16倍
四半期純利益	(1.20) 368	(---) 2	+366	177倍
SVA	200	-143	+343	--
連結ガス販売量	百万m ³ 3,703	4,093	-391	
為替レート	円/\$ 95.5	106.1	-10.6	
原油価格	\$/bbl 61.8	119.7	-57.9	
連結子会社数	131	135	-4	

10.3 2Qの原油価格実績は、9月速報値までの平均。SVA(Shareholders value added)=NOPAT – 投下資本 × WACC

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

こちらでは、3ページでご説明した、2010年3月期第2四半期累計決算の概況につきまして、数値でご確認いただきます。

売上高は、先にご説明した通り、前年同期と比べて、1,046億円減(-17.3%)の5,016億円となりました。

営業利益については、先にご説明したスライド差益の発生により、前年同期と比べて、605億円増の617億円となりました。

経常利益については、スライド差益の発生がある一方で、原油価格下落により、北海油田の持分法投資利益が減少したため、前年同期と比べて、565億円増の600億円となりました。

原油価格の今年度上期平均は、1バレル61.8ドルで、昨年度上期平均の約半分にまで下落しています。

連結子会社は、前年同期末と比較すると4社減少、前期末と比較すると5社減少の131社となりました。

10.3期第2Q実績 II

連結: 億円	10.3 2Q末	09.3 2Q末	09.3 期末	差異 対前期
総資産	14,395	14,918	14,524	-129
自己資本	6,564	6,273	6,125	+438
有利子負債	5,459	6,240	5,734	-274
設備投資	408	457	1,060	-48
減価償却費	458	430	865	+28
フリーキャッシュフロー	1,012	-306	562	+1,319
在籍人員	19,287	18,732	19,009	+278
自己資本比率	45.6%	42.1%	42.2%	+3.4%

B/S項目・在籍人員・自己資本比率の前期差は、09年3月期末との比較。

在籍人員は、嘱託を含み出向を除く(有価証券報告書と一致)。

FCF=営業活動によるキャッシュフロー-(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設定維持投資による支出。

資産・負債項目等については、ご覧の通りです。

大阪ガス個別での原料費の低減に伴って、フリーキャッシュフローは、前年同期と比べて大きく増えており、1,319億円増の1,012億円となりました。また、フリーキャッシュフローの増加に対応して、有利子負債は2009年3月末と比べて274億円減の5,459億円となりました。

設備投資については、LNG船建造や泉北発電所建設が収束したこと等から、48億円減の408億円となりました。

減価償却費については、4月・5月から稼働している泉北発電所の減価償却費が増えたことから、前年同期と比べて28億円増の458億円となっています。

10.3期見通しの考え方

■ 前提諸元

- 原油価格は、当初見通しの\$55/bblから下期を\$80/bblとし、通期\$68.4/bbl。
- 為替レートは、足元の状況を反映して10月のみ90円/\$とするが、11月以降は当初見通し通りの95円/\$で、通期95.3円/\$。

■ 個別ガス販売量

- 家庭用は、上期が当初見通しを17百万 m^3 下回っており、下期も新築着工件数の減少影響等を織り込み、当初見通しより25百万 m^3 下方修正(通期で42百万 m^3 下方修正)。
- 業務用その他は、上期が当初見通しを24百万 m^3 上回ったが、下期は当初見通し通り。

■ 大阪ガス個別

- 営雑(器具販売・受注工事)での、新築着工件数の減少影響を織り込み。
- 上期実績を踏まえて、諸経費の減少を織り込み(73億円)。

■ 連結子会社

- 一部の会社での景気低迷影響を織り込み、売上高を155億円下方修正。

修正額は、売上高で-10億円、営業利益で+25億円、経常利益で+40億円。

配当は、中間配当3.5円/株を決定、年間では7円/株を維持する予定。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

続いて、2010年3月期通期の見通しについて、ご説明します。今回、見通しの修正を行いました。主な変更点をこちらにまとめています。

まず、前提諸元については、原油価格を当初見通しの1バレル55ドルから下期1バレル80ドルとし、通期は1バレル68.4ドルの想定です。為替レートは、足元の状況を反映して10月を1ドル90円としますが、11月以降は当初見通し通りの1ドル95円で、通期は1ドル95.3円の想定です。

個別のガス売上高については、家庭用が、上期に当初見通しを17百万 m^3 下回りましたが、下期も新築着工件数の減少影響等により、当初見通しを25百万 m^3 下回ると想定しています。通期では、42百万 m^3 の下方修正となります。

業務用その他は、上期に当初見通しを24百万 m^3 上回りましたが、下期は当初見通しの通りとして変更していません。

この他、大阪ガス個別では、器具販売や受注工事での新築着工件数の減少影響や、上期実績を踏まえた諸経費の減少を織り込みました。

また、連結子会社については、一部の会社での景気低迷影響を織り込み、売上高を155億円下方修正しています。

以上の結果、売上高は10億円の下方修正、営業利益と経常利益はそれぞれ25億円と40億円の上方修正となります。

なお、配当については、1株当たり年間7円を維持する予定です。

10.3期年間ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 10.3期 見通し	B. 09.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	期末取付メーター(千件)	6,972	6,939	+34	+0.5%
	新設工事件数(千件)	80	112	-32	--
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.9	32.3	+0.6	+1.8%
	家庭用	2,282	2,238	+44	+1.9%
	商公医療用	1,532	1,580	-48	-3.1%
	工業用	3,722	4,128	-405	-9.8%
	業務用計	5,254	5,708	-454	-7.9%
	他ガス事業者向け	432	434	-1	-0.3%
	(うち大口供給)	(4,386)	(4,834)	(-448)	(-9.3%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	7,969	8,380	-412	-4.9%
連結ガス販売量	8,002	8,416	-414	-4.9%	

前のページの考え方に基づく通期のガス販売見通しは、ご覧の通りです。

家庭用は、前年比1.9%増の2,282百万m³、
 商業用および公用・医療用は、前年比3.1%減の1,532百万m³、
 工業用は、前年比9.8%減の3,722百万m³で、
 大阪ガス個別のガス販売量は合計で、前年比4.9%減の7,969百万m³
 となる見通しです。

10.3期見通し I

連結、単位：億円、 ()内は連単倍率	A. 10.3期 見通し	B. 09.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.30) 10,905	(1.37) 13,267	-2,362	-17.8%
営業利益	(1.50) 845	(1.77) 669	+175	+26.2%
経常利益	(1.29) 760	(1.71) 645	+114	+17.8%
当期純利益	(1.21) 455	(1.50) 360	+94	+26.2%
SVA	110	51	+58	+113.6%
連結ガス販売量	百万m ³ 8,002	8,416	-414	
為替レート	円/\$ 95.3	100.5	-5.3	
原油価格	\$/bbl 68.4	90.5	-22.1	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT - 投下資本 × WACC

10

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

売上高は、景気後退によるガス販売量の減少や、原料費調整制度に基づくガス販売価格の下落等により、前年比17.8%減の1兆905億円の見通しです。

前提諸元の変更により、当初見通しと比べるとガス粗利は減少しますが、前年と比べると、原料価格の下落によりガス粗利は大きく改善するため、営業利益は前年比26.2%増の845億円、経常利益は前年比17.8%増の760億円となる見通しです。

10.3期見通し II

億円、人	A. 10.3期見通し	B. 09.3期実績	A-B
総資産	15,227	14,524	+702
自己資本	6,356	6,125	+230
有利子負債	6,509	5,734	+774
設備投資	1,030	1,060	-30
減価償却費	974	865	+108
フリーキャッシュフロー	740	562	+177
在籍人員	19,379	19,009	+370
ROA	3.1%	2.5%	+0.6%
ROE	7.3%	5.7%	+1.6%
自己資本比率	41.7%	42.2%	-0.4%
EPS(円/株)	21.1	16.7	+4.5
BPS(円/株)	295.9	284.1	+11.7

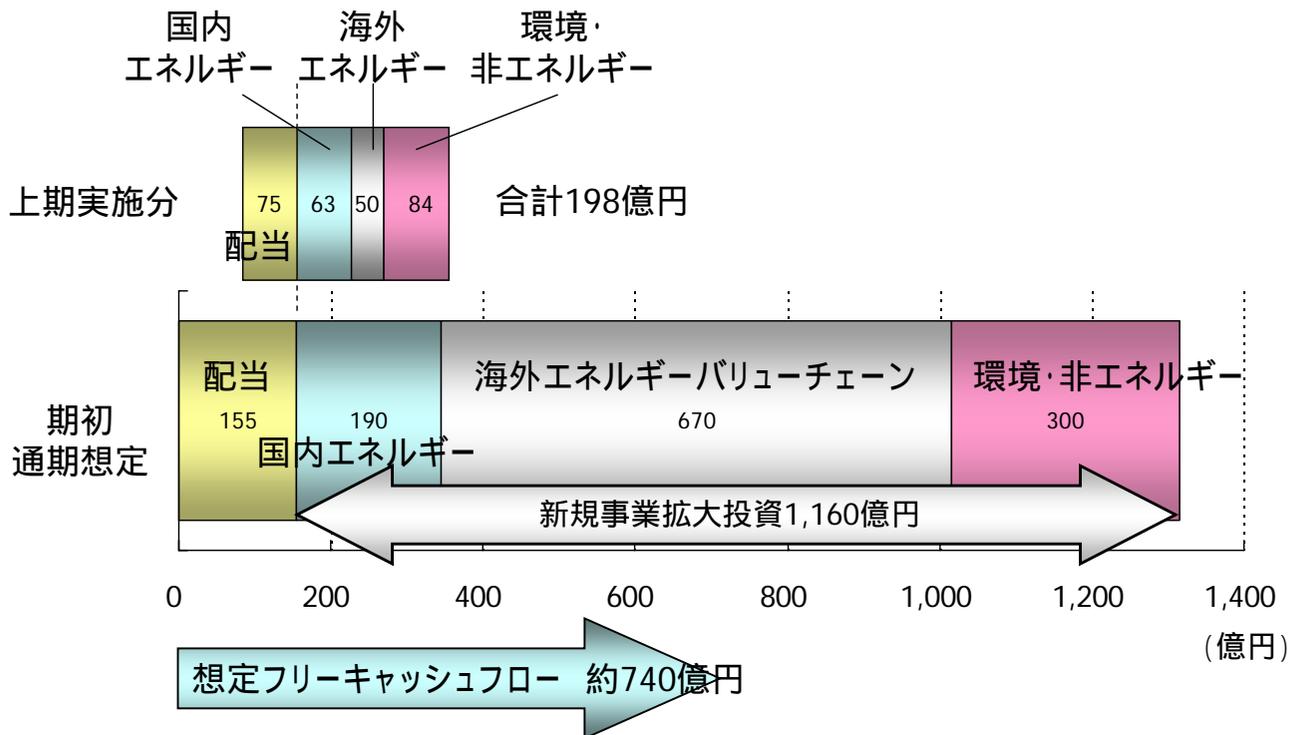
ROA,ROEの分子は共に当期純利益で、分母は期首・期末平均値。自己資本比率は期末値、EPSの分母は期首・期末平均、EPSの計算にあたって、考慮必要な潜在株式はありません。在籍人員は、嘱託を含み出向を除く(有価証券報告書と一致)。
FCF=営業活動によるキャッシュフロー-(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常設備維持投資による支出。

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

資産・負債項目と主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

今回の修正により、ROAは3.1%、ROEは7.3%となる見通しです。

10.3期投資計画の進捗状況



投資計画の進捗状況について、ご説明します。

2010年3月期は、1,160億円の新規事業拡大投資を計画していました。

上期での投資実績は、国内エネルギー事業における泉北発電所建設や、海外エネルギーバリューチェーン事業におけるLNG船建造、環境・非エネルギー事業における不動産や先端材料での投資等、計198億円です。先にご説明した通り、上期には、姫路・岡山ライン、ゴーゴン・プロジェクト、風力発電事業の3件で数百億円に上る投資の意思決定を行っており、今後は、これらの投資を実行していくとともに、新規投資の実施にも努めていきたいと考えています。

姫路・岡山ラインの建設

- 2014年の完成を目指し、兵庫県姫路市～岡山市間(延長85km)にパイプラインを建設。
- 沿線の産業用のお客さまへの天然ガス供給を計画。



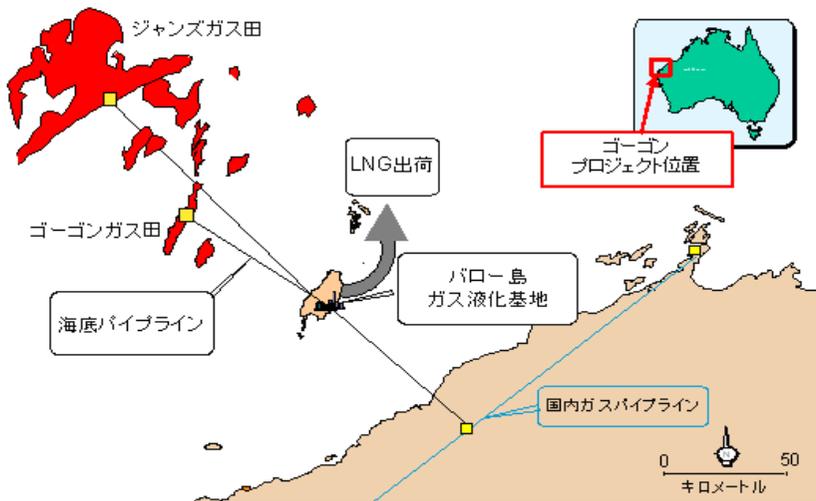
最後に、新規事業拡大投資について、これまでに決定・発表した案件をご説明させていただきます。

当社は、2014年の完成を目指して、兵庫県の姫路市から岡山市に至る延長85kmのパイプラインを建設することを決定しました。

沿線では、化学、機械、窯業等の産業用需要が見込まれており、今後、こうした需要の開拓を進めていく方針です。

豪州 ゴーゴン・プロジェクトへの参画

- オーストラリア北西部のゴーゴン・プロジェクトの権益1.25%を取得する契約を締結。
- 権益比率に応じた18.75万トン/年のエクイティLNGを受け取る。
(自社の原料として使用することも第三者に販売することも可能)
- 権益取得とあわせて、LNG売買契約を締結。
(2014年から25年間、契約数量137.5万トン/年)



14

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

当社は、2009年9月、オーストラリア北西部のゴーゴン・プロジェクトの権益1.25%を取得する契約を締結しました。

ゴーゴン・プロジェクトは、2014年頃から年間約1,500万トンのLNGの生産が予定されています。当社は、今回の権益の取得に伴って、応分のプロジェクト費用を負担する代わりに、生産量の1.25%に相当する年間18.75万トンのLNGを現物で得ることが出来るようになります。このLNGは、当社が自社の原料として使用することはもちろん、国内外の第三者に販売することも可能であり、こうした自由度の高いLNGを確保することにより、将来はLNGトレーディング事業も展開していきたいと考えています。

なお、ゴーゴン・プロジェクトについては、権益取得契約とあわせて、2014年から25年間、年間137.5万トンのLNG売買契約も締結しています。

豪州 風力発電事業(ハレット4)への参画

- 大阪ガス、丸紅、豪州エネルギー会社APAが共同で、豪州最大手のエネルギー会社AGLが開発する風力発電事業ハレット4プロジェクトに参画。
- 出資比率は、大阪ガス39.9%、丸紅39.9%、APA20.2%。
- ハレット4プロジェクトは、AGLに対して25年間の長期売電を行うことで、安定した収益が見込まれる。

ハレット4プロジェクトの概要

- 所在地 南オーストラリア州
- 建設着工 2009年2月
- 運転開始 2011年6月予定
- 発電容量 13.2万kW



ハレット4プロジェクト

当社は、2009年10月、丸紅、オーストラリアのエネルギー会社であるAPAグループと共同で、オーストラリア最大手のエネルギー会社AGLが開発する風力発電事業「ハレット4」プロジェクトに参画しました。

近年、オーストラリア政府は再生可能エネルギーを推進しており、本プロジェクトはこの政策方針に沿うものです。ハレット4プロジェクトは、南オーストラリア州に位置し、2011年6月の運転開始を目指して建設中で、発電容量は、風力発電63基による13.2万kWが予定されています。

当社の出資比率は39.9%、出資額は31億円となります。

当社、丸紅、APAグループは、昨年12月に、パイプライン等の事業会社EII社の共同株主となっており、今後もオーストラリアにおけるエネルギー事業のさらなる拡大を図っていきたいと考えております。

以上で、2010年3月期第2四半期決算と通期の見通しについてのご説明を終わらせていただきます。

II. 参考資料

連結決算の主な差異 (対前年同期)

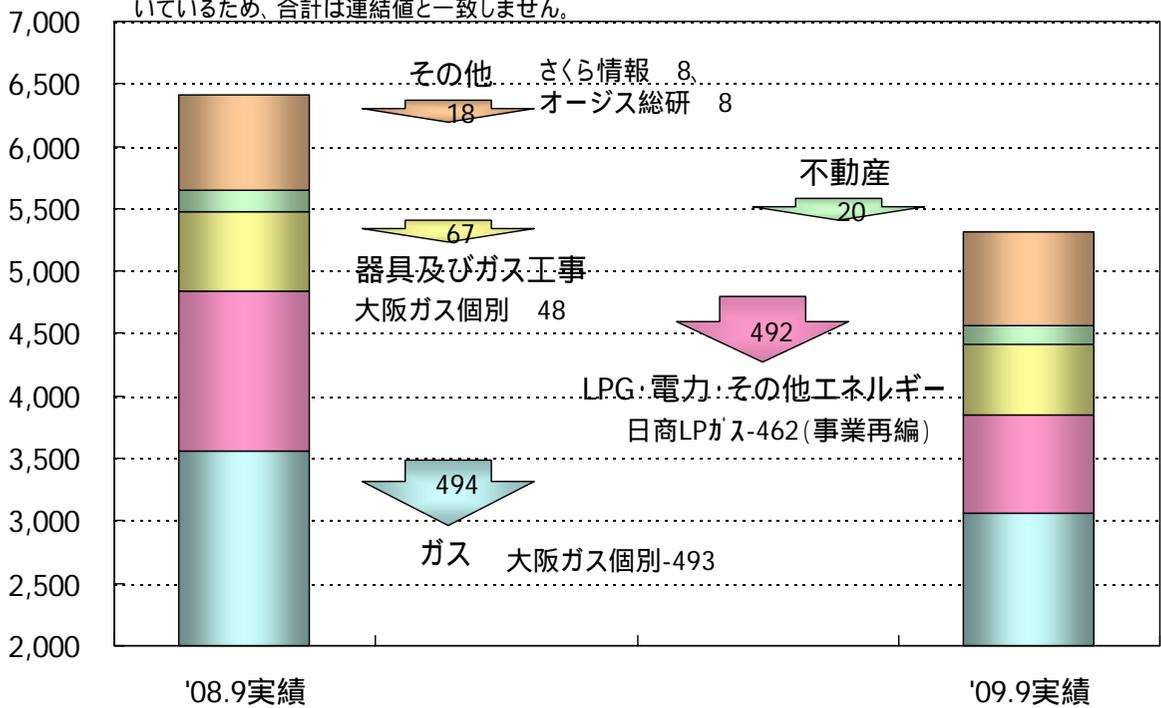
単位: 億円、利益増加をプラス表示

売上高	-1,046	個別	-478	ガス売上 -501 営雑 -40 (受注工事-26、器具販売-21等) 附帯 +62 (電力+93等)
		連結子会社	-567	日商LPG -462 (事業再編に伴う元売販売量減) 泉北発電2社 +113 日商プロパン -27 (灯油の販売量減等)
営業費用	-1,652			
営業利益	+605	個別	+589	ガス粗利 +534 (スライド影響+631、料金改定-18、数量差等-78) 費用増 -16 (労務費増-35、諸経費減+18等) 営雑附帯差益 +71 (附帯[LNG販売等]+55等)
		連結子会社等	+16	泉北発電 +14
経常利益	+565			持分法投資利益 -44

セグメント別売上高

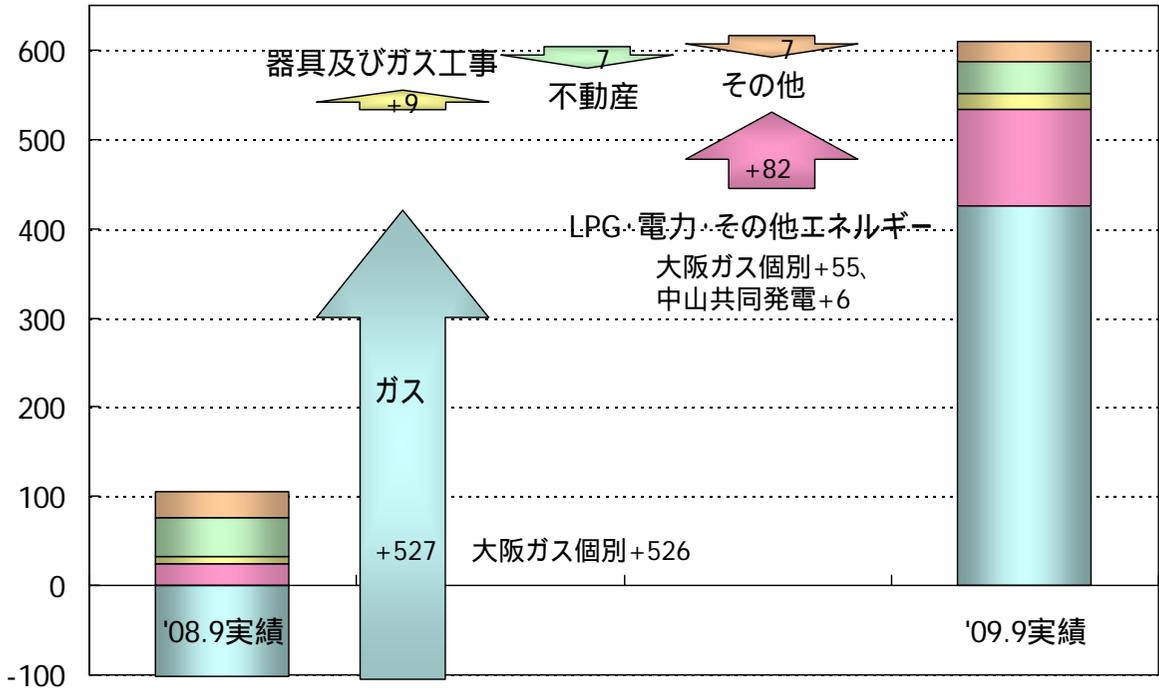
(億円)

図中の矢印の長さは、イメージであり、数値を正確に反映したものではありません。「消去又は全社」を除いているため、合計は連結値と一致しません。



セグメント別営業利益

(億円) 図中の矢印の長さは、イメージであり、数値を正確に反映したものではありません。「消去又は全社」を除いているため、合計は連結値と一致しません。



Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

セグメントの概況(1) (個別除く)

連結子会社の単純合計、左肩は対前期比

億円	売上高		当期純利益		備考(通期売上高見通しについて)
	第2Q	通期見通	第2Q	通期見通	
大阪ガス傘下 (ガス/ LPG・電力・その他/ 器具・ガス工事/ その他)	+46 1,132	+166 2,537	+29 70	+19 92	当初見通しから-120億円修正 (CTS[-35]、OG住設[-15]、 きんぱい[-10]、KRI[-5]、 OGスポット[-5]等)
リキッドガス グループ (LPG・電力・その他)	-562 335	-921 796	-14 -2	-16 5	当初見通しから-20億円修正 (日商LPガス[-10]、 日商プロパン[-10])

CTS:クリエイティブテクノソリューション

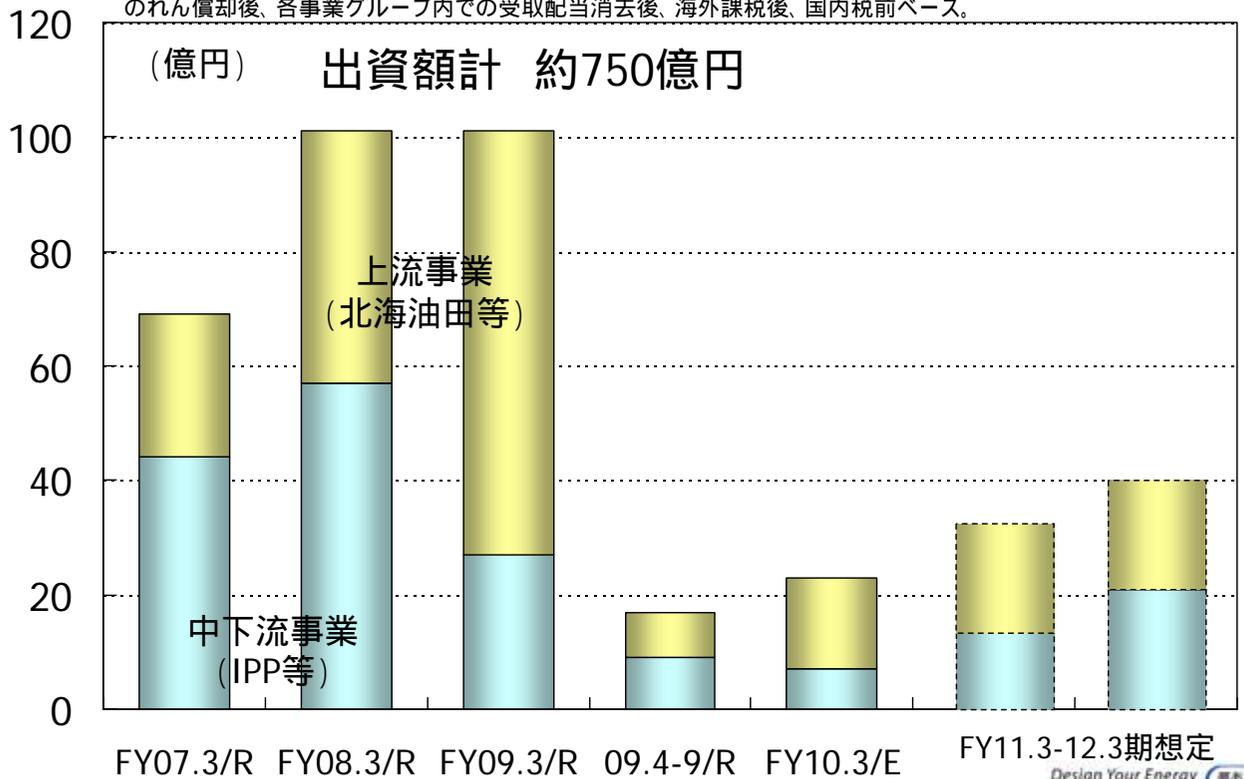
セグメントの概況 (2)

連結子会社の単純合計、左肩は対前期比

億円	売上高		当期純利益		備考(通期売上高見通しについて)
	第2Q	通期 見通	第2Q	通期 見通	
アーバネックス グループ(不動産)	-19 159	-8 343	-4 17	-8 27	当初見通しから-10億円修正 (大阪ガスメゾン)
オーガス総研 グループ(その他)	-16 245	-52 519	-4 4	-13 17	当初見通しから-70億円修正 (オーガス総研[-40]、 さくら情報[-30])
大阪ガスケミカル グループ(その他)	-9 167	-9 323	+2 12	-1 14	当初見通しから+10億円修正 (OGケミカル[+20]、 日本インハイロケミカルズ[-10])
連結子会社 合計	-561 2,040	-825 4,519	+8 103	-19 156	

海外出資案件の利益貢献

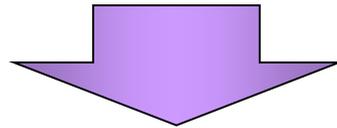
05.3期以降の海外出資案件の利益貢献を表示。
 のれん償却後、各事業グループ内での受取配当消去後、海外課税後、国内税前ベース。



家庭用ガス販売

FY10.3 2Q

	対前期	備考
調定件数	+0.2%	
気温影響	+0.7%	平均気温23.2度(対前期 0.2度)
その他	-1.1%	
合計	-0.2%	



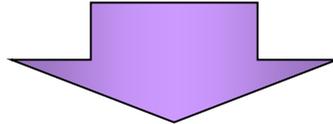
FY10.3期見通し

- 上期は当初の見通しを17百万m³下回った。
- 新築着工件数減少に伴う調定件数の伸びの鈍化や、景気低迷に伴う需要開発効果の減少等を考慮し、下期は当初の見通しを25百万m³下回ると想定。
- 通期では、当初の見通しを42百万m³下回り、対前期44百万m³増の2,282百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

FY10.3 2Q

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	商業用大型物件等の獲得
気温影響等	-5.5%	7月および8月の低気温と、お客さまの省エネルギー推進などの影響
合計	-3.6%	



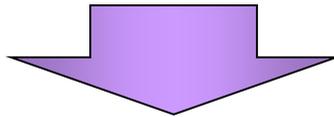
FY10.3期見通し

- 上期は当初の見通しを7百万m³下回った。
- 下期は、平年並み気温を前提に、新規需要獲得が当初の見通しに沿って推移すると想定。
- 通期では、当初の見通しを7百万m³下回り、対前期48百万m³減の1,532百万m³と想定。

工業用ガス販売

FY10.3 2Q

	対前期	備考
需要開発	+2.6%	主に他燃料からガスへの転換の寄与
稼働増減等	-18.5%	景気後退による生産設備の稼働減少やお客さまの省エネルギー推進などの影響
合計	-15.9%	



FY10.3期見通し

- 上期は当初の見通しを26百万m³上回った。
- 下期は、景気減退の影響も織り込まれている当初見通しの通りと想定。
- 通期では、当初の見通しを26百万m³上回り、対前期405百万m³減の3,722百万m³と想定。

年度見通しに対するリスク要因

- 気温・水温
 - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- 原油価格
 - LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度の粗利益は8億円変動する可能性がある。
- 為替レート
 - LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度の粗利益は8億円変動する可能性がある。
- 原料費
 - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
 - LNG調達先との契約更改・価格交渉の結果、原料費の精算が発生する可能性がある。
- 金利
 - 金利1%の変動に対して、連結営業外費用が年間8億円変動する可能性がある。